



卒業式に向けての準備が着々と進んでいます。既に2回行われた全体練習では、礼法指導や式歌練習、3年生の入退場・証書授与の練習を行いました。生徒全員が真剣に取り組んでいました。特に、3年生の糸乱れぬ動きは、1・2年生に良い模範となっていたようです。こうやって伝統が引き継がれていくものだと思います。8日の式予行を経て、13日の本番を楽しみにしています。

特集

思春期の中学生への接し方

「思春期」というと、「子どもと接するのが難しい年頃」というイメージがあります。

これから子どもが思春期を迎える保護者や、すでに思春期を迎えている子どもを持つ保護者にとっては、どう接すればいいか頭を抱える時期でもありますので、子どもへの関わり方や注意点などをご紹介します。

思春期の中学生への保護者の関わり方

子どもが成長し、突然反抗的な態度をとってきた場合、「この子は一体どうしちゃったの?」と戸惑ってしまうかもしれません。真正面からぶつかってお互いに傷ついてしまっただけではいけないので、「思春期は子どもの成長に必要な時期だ」と考え、子どもの力を信じてあげることが大切です。保護者にとっても試練の時期ではありますが、いつも変わらぬ態度で接すること、笑顔で心をかけること、子どもが求めているときにはしっかり応じるなど、子どもが安心できる環境を作ってあげながら、子どもの成長を見守ってあげましょう。お互いになんでも言える関係を目指しながら、子どもの自立を促せるよう、大人と子どもで一緒に乗り越えていく気持ちが大切です。

思春期の子どもを持つ親が気を付けたいこと

思春期の子どもは悩み、葛藤する時期でもありますので、子どもに関わる保護者として、気を付けたいことや、NGワードについても押さえておきましょう。思春期の子どもは「自己肯定感」を養えるように「認めてあげる」ことが大切です。そのため、「全然ダメだな」、「また失敗したのか」「やっぱり無理だったか」「やっぱり親のほうが正しい」といった否定的なワードはNGです。「何度失敗してもいいんだよ」「いつも味方だからね!」「思う存分やっごらん」というように、本人の考えや行動を認めながら、子どもの背中を押せるようなワードを意識して声かけをしてあげましょう。

まとめ & 実践 TIPS

思春期は、子どもにとっても大人にとっても辛い時期でもあります。特に子どもに反抗されると、親としてはどうしてよいかわからなくなってしまいます。しかし、思春期や反抗は、子どもが成長している証であり、大切なステップでもあります。これから一人の大人として親離れをして立ち立つために必要なことととらえながら、頑張りましょう。



(参考 <https://benesse.jp/kosodate/202010/20201002-3.html>)

日頃の子どもの様子については、喜久田中 Web ページをご覧ください。
<https://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0720004>

